

あゆみ

『 職業意識 』

理事長 森 公夫

「職業意識」という言葉を調べてみました。「職業に従事する人の、自分の職業に対する考えや自覚。また、その職業に従事する人に特有な意識や感覚。」とありました。職業にはいろいろありますから、そ



の中身は千差万別とは思いますが、どんな事業をするにしても、携わる職員にいちばん備えて欲しい資質ではないでしょうか。

昔は「聖職」という言葉があり、宗教上の聖職者だけではなく、教師のような仕事をそう呼んだ時代もありました。師弟愛を書いた新田次郎の小説に「聖職の碑」という作品もあります。今は「聖職」と呼ばれて奮い立つ人はなく、かえってブレッシャーで潰れてしまう人のほうが多いためか、久しく使われる事ありません。

ただ、聖職とまではいえなくても、教員も消防や警察で働く人や公務員も、国民市民のための仕事に携わる人はそれに近いものがあると思います。しかしご存知のように、先日の警察官の火事場泥棒や公務員のコロナ支援金の不正受給、学校関係者の不祥事など、採用のときにはきつと何度も念を押されたはずの「職業意識」という言葉をどこかに置き忘れた事件が頻発するのはなぜでしょう。

反対に、振り込め詐欺をする人たちにも「職業意識」はあるはずですが、警察に知られないように、相手に気付かれないようにというのが「特有な意識や感覚」だとしたら、そのレベルはかなり高いのかも知れません。警察の「職業意識」が、それを遥かに越えるものであることを信じます。

この国はひと昔前まで、勤勉で正直な国民の住む、世界一治安のよい国でした。しかし今はとてもそうとは言えません。苦勞をせずにお金儲けをする事、他人のことなどおかまいなく自分の利益を優先することがクールといわれる時代なのです。

日本は、四十年かけてここまでダメになりました。元に戻すには少なくとも同じ年月が必要です。為政者には、その場その場の迎合主義ではない、未来を見据えた息の長い教育を期待します。

さて、今年もクリスマスがやってきました。町にはイルミネーションが輝き、教会にはアドベントキヤンドルがともされています。私たちは、この蝋燭のように、神様から与えられたそれぞれの長さの命を燃やしながら人生を歩んでいます。

寝ころがってテレビを見ていても道端のゴミ拾いをしていても、蝋燭は同じように短くなっていきます。それならばだれかの役に立ちたい、笑顔のために働きたいというのが人としての願いではないでしょうか。

私たちは幸運にも、誰かのために明かりをとます福祉という仕事に携わっています。ありがたいことです。その感謝のともし火を、どうか日々の勤めの中に輝かすことが出来ますように、助けを必要とする方々にとって、心強く明るい光になりますようにと祈ります。

社会福祉法人あゆみ学園

理念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督教（キリスト）教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎（いしずえ）とし、キリスト教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

『うさぎのつぼみ』

松山教会

牧師 上島 一高

ろうの世界と米国での「ろう者の」大学の歩みを初めて知ったのは、神経学者オリバー・サックス『手話の世界で』からだ。その後、「ライ・フィリパー監督の映画『音のない世界で』を観て、「声を見る」文化が「声を聞く」文化と対等であること」を実感する。

サックスの『色のない島へ』では、彩りよりも陰影を見る遺伝的特性を持つ人々が多い世界に目を開かされた。野島智司『ヒトの見ている世界 蝶の見ている世界』からは、そもそも見るということ自体の多様な在り様を通し、それらが「進化」ではな

く「展開」だと知る。

広瀬浩二郎・嶺重慎『なわつておひさし〜』は、「晴眼者「健全者」／視覚障害者の陳腐な二分法に対し『見常者』『触常者』という新しい呼称を提案」しており、「さわる宇宙」の豊かさ、おもしろさを知らせてくれた。

岩堀修明『感覚器の進化』に至って、ついに、感覚器（視覚・味覚・嗅覚・聴覚・体性感覚）が、世界の情報の多様な受容体のそれぞれであることを意識させられた。そして、個々が感じ取った固有の「世界」は、どれも掛け替えのないものであることに目を開かされたのだ。

本や映画作品を連ねたのは、それらが実際の体験を裏付け、分かり易く整理してくれるから。すなわち、ろう者の親子との出会い、脳挫傷で「ことばの教室」にも通った息子の子育て、幼稚園長として特性のある子どもたちとの遊びを通しての実感を、より広い視野のうちに置いてくれたのだ。

先日、私は初孫と対面した。もう8カ月で、お座りが出来、また、ハイハイまでは行かないものの、匍匐前進をし、意味不明ながら声を出し、何かを訴えている。こちらが手を叩くと、自分でも手を叩いて笑う。世界に働きかけて、世界の反応を感じ取って、それを投げ返す。

このように何を何千回も、何万回も、数えきれないほど重ねる中で、幼子は、全身で情報を受け止め、「生きる」。それは、一生更新され続ける。老いて、様々な感覚器の精度が低くなっても、その時に適った仕方です「世界」と仲良しになり、その「世界」を生きる。いのちつよすい〜





『あゆみ学園といっしょ』
あゆみ学園

管理者 武智 一郎

あゆみ学園には、保育士の資格を取ろうとしている学生さんが何人も実習に来ます。私はその人たちにやさやかな講義をするのですが、その際に必ず言う言葉があります。それは、『泣いている子、怒っている子、いつことを聞かない子がいたら、それはあなたに何かを訴え、何とかしてくれと頼んでいるの

です。』という言葉

です。子どもたち

ちは、どうしよう

もない困った状

態になって助け

を求めているの

でしょう。その原

因を色々と考え、

解さばべし、子ど

もたちの状態を

少しずつ改善し

ていくのは、あゆ

み学園の大事な仕事です。

話は変わりますが、振り返ってみると、あゆみ学

園そのものが困って助けを求める人のために生ま

れた学園なのです。六十年ほど前、重い障害ゆえに

学校にも入学できず、施設にも入れなかった子ども

を抱え困り果てていた人々のために、あゆみ学園は

誕生しました。

○ 当時の入園案内にはその目的として、

持っていることを忘れず、また、いつもつましい

心を持ち、仲良く助け合い、互いに体と魂を暖めあ

っていく様に心がけます。

○ ともに悩み、悲しみ、喜びを分かち、親御さん

が見失いがちな光を見出し、明るい心の人となる様

を努めます。

などどうたわわれており、当時の保護者・関係者が暗

闇の中に見出した希望が見えるようです。

設立六十年を迎えた節目に振り返ってみて、その

原点を心に刻んでいきたいものだと思います。



『誰もが人生の機長であり乗客』
多機能型事業所あゆみ

管理者 喜安 勝也

人生には、思いがけないハプニングが起こってきます。欧米では、こうした時に「Don't Panic」と言って、「慌てないで、落ち着いて行動しよう」と互いに促し合っています。

事故や災害の回避、被害を抑えるためには、普段からの危機管理意識と心構えが大切だと思います。

十三年前に、後に「ハドソン川の奇跡」と呼ばれる飛行機事故がありました。2009年1月、ニューヨークの空港を発った航空機は、離陸直後にガンの群れが直撃し、エンジン2基が完全停止。機長は、空港に引き返すことは困難と判断し、市街地への墜落を避けて川に緊急着水を決断しました。

でも、無事着水したのですが、機体後方部の損傷による浸水が始まり、乗客は停電で真っ暗の中、機体沈没の恐怖に苛まれました。機長と客室乗務員等は一丸となって乗客を機体前方へ誘導し、パニックになることなく脱出シユーター及び両主翼へ迅速に避難できたのです。

加えて、機長は乗客の有無を2度確認して最後に脱出し、155人全員の無事生還が完了。機体は着水して約1時間後に水没しました。

私がある場にいたらと思う時、自分の生還だけに固執すればきっとパニックに陥ったことでしょう。乗客全員の生還を願った機長らの沈着冷静な行動に教えられ、苦境の場面ほど導き手の役割と責任の重さを改めて痛感しました。この「生還」は「幸せ」にも繋がると思います。

『プール活動について』

児童発達支援センター あゆみ学園
児童発達支援管理責任者 今村 高博

今回は、あゆみ学園で行っている療育活動の一つの『プール活動』について紹介します。

現在は竹原町にあります『石原スポーツクラブ』さんのご協力により実施しておりますが、実はあゆみ学園のプール活動の歴史は数十年前まで遡ります。

あゆみ学園が現在地（松山市余戸南）に移転してきたのは平成7年。移転前の園舎でもプール活動は実施していたようで、当時の記録の写真が残っています。



旧園舎時代のプール活動写真

そして現在地への移転計画の折にもプール活動の必要性から、園舎内に温水プールの設備が出来ることになったそうです。ご存じの方もいると思いますが、現在の『ホール2』が実は温水プールでした。私があゆみ学園に入社したのが平成10年で、当時のプール活動について少し紹介します。

当時は毎週木曜日と金曜日の午前中の週2回がプール活動でした。外部の講師の方を非常勤としてお招きし、その方の指導の下で活動を行っていました。園舎内にプールがあることで回数が確保でき、現在よりも多くの方の参加が出来たと思います。当時はプールの発表会として『プールカーニバル』という行事もありました。その後、設備の老朽化に伴い園舎内での実施が困難となりましたが、改めてプール活動の必要性を鑑み、他施設の設備をお借りして実施するという形で継続し現在に至ります。

このように長く継続して実施してきたプール活動ですが、改めてその療育効果についていくつかご紹介いたします。

まずは『水の特性』について。『水』には大きく分けて『浮力』『抵抗力』『水圧』『水温』『水流』という5つの特性があります。同じ活動を行ったとしても、このような特性により陸上での活動の何倍もの効果があります。これらの特性を生かすことで、身体的・精神的に様々な効果を得ることが出来ます。

体力や筋力の向上は勿論、リハビリ効果や様々な感覚刺激、体温調節機能の向上やマッサージ効果も期待できます。活動内容も簡潔で分かりやすく見通しが立ちやすい為、達成感が得られやすいのも大切なポイントです。また、親子で入水することでスキンシップを図り、親子の良質な時間を確保すること

も出来ます。その他、丈夫な体作りや泳力の向上等による水の事故防止、適度な運動によるストレス発散効果やダイエット効果も。

以上のように効果を挙げればキリがありませんが、今後もあゆみ学園の大切な活動の一つとして継続していきたいと考えています。

『一緒に遊ぼう』

児童発達支援センターあゆみ学園

保育士 西淵 真凜

あゆみ学園に来て、早くも5年が経とうとしています。入社した1年目、不安と緊張の中で園生活を送っていたのを懐かしく思います。

今年度は、新入園児の年少・年中児を担当させてもらっています。私が1年目の時に思っていたように、不安と緊張の中で入園してきた子どもたち。日々、泣いたり笑ったり、いろんな感情を私たちに見せてくれます。

4月の頃は、個々に遊んでいた子供たちですが、最近では、友だちを意識し始めて「一緒に遊ぼう」とブロックあそびを誘ったり、「まてまて」と皆で追いかけて遊んだり、友達と楽しむ様子が見られてきました。そんな子どもたちの姿に成長を感じます。集団で過ごしていると、取り合い等のトラブルも起きてしまいますが、それも子どもたちにとっては大切な経験です。「またあそびたいな」「こうしたらいいんだ」というきっかけを作れるように、私も子どもたちの輪に入って必要な方法を伝えていければいいなと思っています。そして3月、さらに大きくなった子どもたちが、どんな姿を見せてくれるかを楽しみにしています。

『 地域との連携 』
児童発達支援事業とどんぐり

児童発達支援管理責任者 黒川 真紀



現在どんぐりは、四五名の登録している子ども達が毎日日替わりで通っています。その中で、幼稚園や保育園に通いながら週一回どんぐりで療育をしている子どもが三三名。

また、障害児等療育支援事業（外来）を利用して子どもが十九名おり、全員が幼稚園保育園を併用しています。あゆみ学園で整った環境を提供し、それぞれの子どもに合った支援を行うことも必要ですが、毎日通っている在籍園で子ども達が毎日楽しく通ってくれることも大切で、その為に、幼稚園や保育園に定期的に巡回し連携を持つようになっています。

現在、年間に延べ約170件の巡回を行っております。また、園や職員に対しての療育指導を行う施設支援は年間に約80件実施しています。巡回や施設支援では、発達に不安がある子ども地域における生活を支えるため、身近な地域で療育を受けられる療育機能の充実を図るとともに、これらを支援する地域の療育機能との連携を図り、地域や家庭での福祉の向上を図ることを目的としています。

巡回する幼稚園や保育園は、規模や環境、活動内容、方針、職員数等様々です。どんぐりや外来とは

違って人数も多く園舎も広く、行事等もたくさんあります。様々な刺激がたくさんある中で子ども達が過ごしやすい環境を提案したり、適切な関わり方や支援の方法を伝えたりするようにしています。指導、アドバイスではなく、園での様子を見たり聞いたりしながら、園の中で出来る事を先生たちと一緒に考えるようにしています。

どんぐりや外来を利用して子ども達が、巡回で会った時に笑顔で手を振ってくれたり、友達を紹介してくれたりもします。真剣な表情で活動に取り組んでいたりと、行事で皆と一緒に集団行動が出来たと聞いたりした時にはとても嬉しくなります。子ども達が地域で楽しく過ごせるように、事業所や保育園幼稚園等、様々な人達が支援し見守っていただけるように今後も連携を続けていこうと思います。

『 あゆみ学園相談支援事業の歴史 』
あゆみ学園指定相談支援事業所

相談支援専門員 梶原 佳代

今年の流行語大賞・年賀状やカレンダー・紅白歌合戦出演者・・・等、2021年の終わりから2022年の始まりにかけての内容をよく目にしたり、耳にしたりするような時期になりましたね。そして私にとっては、この学園報を書く時期にもなりました。毎年毎年何を書こうかなあ・・・と頭を悩ませる時期でもありますが、今年も、あゆみ学園の相談支援の歴史について触れたいと思います。

私があゆみ学園で相談業務を担当するようになったのは平成21年からですが、あゆみ学園の相談業務にはもっ少し歴史があります。平成13年10月、委託を受け、地域療育等支援事業の一環のコーディネート事業として相談事業を開始しました。当時は



そのような事業所が、松山市内にはあゆみ学園を含めた4か所のみでした。その後、平成24年の法律改正に伴い、松山市内でも相談業務の整理が行われ、主に3つに分けられました。①成人の基本相談を担当する事業所②児童の基本相談を担当する事業所③児童成人共に福祉サービス利用に基づくサービス等利用計画を作成する事業所。（もちろん③の事業所も計画作成のみではなく、基本相談有。）①に関しては、松山市から委託を受けた、南部地域相談支援センター・北部地域相談支援センター・松山市社会福祉協議会の3か所となり、②に関しては、松山市内の児童発達支援センター4か所、③に関しては現在約60か所の事業所が担当しております。（児童は約40か所）このような流れの中、現在あゆみ学園指定相談支援事業所では、②の松山市内の児童の基本相談。③の中予圏域の児童成人共に、福祉サービス利用に基づくサービス等利用計画を作成する計画相談。またそれ以外にも松前町から委託を受け、松前町内の児童・成人さんの基本相談。主に3つの相談を担当しております。少しずつ制度改正はありますが、基本的には障害があってもなくてもできるだけ地域で生活していけるように・・・

とというのが国の方針となっており、そこには我々相談支援専門員が重要な役目となっていくと感じています。今後も皆さまがこの住み慣れた地域で、毎日生活を送ることができるよう、インフォーマルなサービスも含めた社会資源

を改善・開発し、利用者と家族、その地域に住む人、支援サービス提供者などを包括的につなげることができると期待されています。ありがたいと思っております。

少し堅苦しい内容になりましたが、「ママ、平成の後、令和になったんやけど、令和1年はいつくるん？」とその発言自体が平和な子どもたち二児の母でもある私です。困ったことがあればもちろんですが、困ったことがなくても見かけたら、気軽にお声かけ下さいね。こんな子育て話でも一緒にしましょう。



『今日も完食』 小規模保育事業所ひかり

調理員 高地 ゆかり

今年度は、一歳前後の赤ちゃんたちがたくさんいて、離乳食を作る機会が多かった年でした。離乳食は月齢によって違い、初期から始まって中期・後期の段階を経て、一歳児の食事と同じものに移行する流れを取っています。初期はドロツとしたペースト状のもの、中期は小さく刻んだぎざみ食、後期は中期より大きめのぎざみ食をベースに作っています。皆それぞれ個人差があって、好みの食材や食べ具合などもまちまちでした。

献立に従って調理しても思い通りはいかないこともあり、乳児クラスの保育士さんから、「〇〇ちゃん、今日完食ですー」と、赤ちゃんたちが喜んで

く食べてくれたのを聞くと嬉しくなります。反対に食べきれない場合もありますが、その時々で食べ具合や体調を聞き、完食してくれるよう臨機応変に工夫をしながらよい対応が出来たかなと思います。新年度からは、また新しい赤ちゃんが入園予定なので、楽しみながら、これからも子どもたちによるこんでもらえる料理作りに励みます。

『保育士になって思うこと』 企業主導型保育事業所あゆみ保育園

保育士 川口 琴乃

あゆみ保育園に勤めて3年目になりました。久しぶりに学生時代に作成したスライドショーを開いてみると、『理想の保育士像』という文字が目にとまり、そこでは『笑顔の絶えない保育士』と答えていました。実際はというと、子どもたちの存在や言葉が私を笑顔にしてくれるので、これは自然と数年前の保育士像を叶えられているんだ、幸せなことだなあと思います。今の『理想の保育士像』を聞かれたら『子ども今の姿をポジティブに見つめられる保育士』と答えようと思います。

1・2年目は、年齢に沿って成長できているかを気にして、周りの差が目立つ子がいると『どんな関わりをすればよいのだろう』



と悩むことがありました。しかし、ある先生から『今、この子は〇〇ができるよね』『前はこうだったけれど今は少し変わったよね』という言葉聞いたときに、知らないうちに、早く解決する方法ばかりを探していた自分に気がつきました。初めの頃と比べると、自分の関わり方や子どもたちの姿を前後で比較しながら振り返ることができるようになった気がします。子どもたちから教えてもらうことばかりですが、これからもみんなと一緒に成長していこうと思います。

『正規職員になって』 多機能型事業所あゆみ 生活介護事業

生活支援員 大野 朋子

今年の初め、施設長から「正規職員として働いてみないか」とお声をかけて頂き、ちょうど子育ても一段落したタイミングと重なり、良い機会かと思い4月よりパート職員から正規職員として働かせて頂くことになりました。

今までパート職員として勤務し、利用者さん達の顔や名前が分かっているものの車での送迎や添乗、事務処理や保護者とのかわりなど今まで経験したことのない仕事ばかりで、四苦八苦の毎日でした。新人とは程遠い年齢ですが、研修にも参加させて頂きました。コロナ禍のためオンラインでの研修となり、こちらも人生初体験。アナログ人間の私は驚きと緊張の中の研修でした。接遇やビジネスマナーなどいちらから学び直す良い機会を与えて頂きました。そんな中、他の職員さんのフォローや利用者さんの笑顔に助けられ今日までやって来ています。本当に感謝しています。困難な壁にぶつかるとも



多々ありますが、それはそれでやりがいを感じるのと同時に責任の重大さを感じています。

家に帰れば家事や食事の支度が待ち構えています。慣れない仕事にぐったりしている私に子供が「ご飯まだ出来てないの?」と容赦なく催促してきます。そんな日々を繰り返していくうちに、だんだんと家族が自分の事は自分で、家事も分担し協力してくれるようになりました。お互いが相手を気遣う気持ちが芽生え思いやりの心が培われました。私がフ

ルタイムで働くことにより相乗効果を得られています。

そして、私がこの仕事を続けていけるのは周囲のたくさんの方々の理解や協力があり、支えてもらっているからこそだと思います。私がたくさんの方に支えてもらっている分、今まで以上に利用者さん達を助け支えていかなければと痛感しています。もっともっと笑顔が増えるように努力を惜しみません。

こんな私ですが、体力が続く限り生活支援員として仕事を続けて行きたいと思っています。みなさんよろしく願います。

『変わるものと変わらぬもの』 多機能型事業所あゆみ

生活支援員 玉置 司

「荷物を持ちましょうか?」と利用者さん。『あら、あゆみに来たばかりの時は挨拶すらしてくれなかったのに!』と嬉しくなる。

廊下を歩いていたら、『いつもはベンチに置きっぱなしの服がない!ロッカーに洋服をしまえるようになったのね!』

『と感動していたら、渡り廊下のベンチに置きっぱなし:『場所が変わっただけなのね:』



とがくくりする。

日々、利用者さんの変化と同時に変わらぬ日々を感じております。

今年も昨年同様、コロナによる変化の激しい一年となりました。人との距離が拡がり、マスク生活が当たり前と



なり、人の表情が見えない時代となりました。しかし、その中で変わらぬもの、頑張ることへの報労と人の優しさ、をこれまで以上に感じる一年でもありました。コロナ禍で観光業はストップ、イベント等も中止が相次ぎました。それに伴い利用者さんの仕事が激減しました。『みんな頑張っているのに、仕事がない:職員も利用者もジレンマに陥っていました。そのような中で、少しでも利用者さんの工賃アップにつながればと大野開発様から、野菜の委託販売の申し出をはじめ、保護者様や近所の方から、アルミ缶の回収へのこれまで以上のご協力、野菜やジャムなどの購入など、頑張っている利用者さんの為にたくさんの方から温かい優しさを頂きました。たくさんの方々とお互いに繋がりがあ、支えられて今があることに感謝しました。

今年もオンラインピックがありました。始まるまでは中止にした方がよいという意見が多数を占めていました。しかし終わってみるとよかったです。

う意見が多数に変わっていました。選手の頑張りど
選手を支えるたくさんの関係者の優しさに世界中
が心を動かされました。

どんな災害や困難があっても頑張る人の姿こそ
れを支えてくれる人の優しさ、そしてそれに感動す
る思いは変わらないということを再認識させられ
ました。

今、私が利用者さんへ伝えたい事。それは「とりあ
えず洋服はロッカーにしまいましょうか!」とい
うのは冗談で、頑張りを見てくれていている人がきつとい
るからこれからも一生懸命、私もみんなも仲良く、楽
しく、優しく頑張っていきたいと思います。



あゆみ学園

父母の会 役員紹介

◎ 会長 賀栄 奈緒美

役員の皆さんに支えて貰いながら、務めさせて頂
きました。子供たち、保護者の皆さんに喜んで貰え
る活動を心掛け、残りの任期も楽しんで頑張ります。

◎ 副会長 内田 千園

今年度役員をさせて頂いております。コロナの影
響により例年通りの活動が出来ていませんが、残り
少ない任期を精一杯努めさせて頂きたいと思っ
ています。よろしくお願い致します。

◎ 副会長 久保 美樹

今年度、副会長をさせて頂いております。不慣れな
事も多く、皆様のご協力を頂きながら、残りの任期

も子どもたちや保護者の方たちのために精一杯務
めさせて頂きます。よろしくお願い致します。

◎ 会計 冨永 るみ子

今年度、会計をさせて頂いております。コロナ禍で
活動が制限される中、先生方や保護者の皆様のご協
力を頂きながら、残りの任期も精一杯務めさせて頂
きます。

◎ 書記 坂田 真弓

書記をさせて頂いております。コロナ禍で活動は少
なめですが、先生方や保護者の皆様と縁を深め、子
供達の笑顔に繋げていけたらと思います。直しくお
願い致します。



多機能型事業所あゆみ

家族会 役員紹介

◎ 会長 野村 りえ

◎ 副会長 森田 静香(書記・会計)

◎ 監事 池尻 泰美

◎ 監事 首藤 ゆか

今年度は、コロナウイルス感染の影響もあり、家
族会関係の行事が出来ず残念でした。春の収穫祭も
実施することができませんでしたが、わくわく販売
会という形で、野菜や余剰品・シヤム・手作りの品な
ど販売する機会を作させて頂きました。

家族会としては、ご協力することができませんで
したが、子供たちは有意義な時間を過ごすことがで
きました。



お知らせ

・令和2年度の苦情受付に関して各事業とも
受付件数0件。処理件数0件でした。

・決算書類、事業案内は、社会福祉法人あゆみ学
園ホームページに掲載しております。

〒790-0047 松山市余戸南6丁目6番9号



社会福祉法人あゆみ学園
児童発達支援センターあゆみ学園
児童発達支援事業どんぐり
ayumi-g@bz01.plala.or.jp

HP Tel 089-972-0999 Fax 089-972-3511

〒790-0047 松山市余戸南6丁目3番26号

多機能型事業所あゆみ
生活介護事業所あゆみ
就労継続支援B型事業所あゆみ
あゆみ学園指定相談支援事業所
ayumi-s@ksn.biglobe.ne.jp

Tel 089-974-5141 Fax 089-907-6100

〒790-0912 松山市畑寺町843番地1号

多機能保育事業所あゆみ
小規模保育事業所ひかり
企業主導型保育事業所あゆみ保育園

Tel 089-948-4402 Fax 089-977-4412